

日吉町自治会だより

発行 日吉町自治会
編集 日吉町自治会
広報委員会
発行日 平成21年1月

第4号 平成21年 新春号

平成二十一年の自治会活動について

日吉町自治会

会長 白鳥 正次

平成二十一年の新年に当り、住民の皆様におかれましては、
明るい希望のある年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
さて自治会活動につきましては、前号でご報告いたしました
恒例行事以外の活動としては、四月に消防器具置場の移転
を致しました。

以前は、日吉公園のはずれの不便な場所にあり、緊急時の
出動に支障があり、検討して参りました結果、地元関係者の
ご尽力を頂き、自治会館横の駐車場の一部を改造し、移転す
る事が出来、緊急時の早い対応が出来るようになりました。

又、自治会館の有効な利用について検討して参りました結
果、六月に地元絵画愛好家のご協力を頂き「日吉ミニギャラ
リー展」として開催いたしました。

その他、婦人会主催によるバザーを行い、住民の皆様より
物品の提供をお願いし、大変好評でした。その他、華道展、
写真展、書道教室等も実施しており、今後も自治会館のご利
用を促進していきたいと考えております。

さて、今年の大きな課題といたしまして、各種災害に備え、
自治会役員及び民生委員会を中心とした自主防災組織を作り、
高齢者を中心とした災害時の救助をする為、要救助者の名簿
を作成し、各地区毎に緊急時に備える事と致しました。又、
消防署主催による救助防災研修会を受講し、万々に備えての
組織を作る事に致しました。

以上今年も自治会活動により住民の皆様と共により良い町
づくりをして行きたいと考えております。どうか住民各位の
ご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成二十一年一月



港北区内の犯罪情勢について

港北警察署 生活安全課

防犯係 警部補 佐藤浩二

日吉町自治会の皆様方については、平素から、防犯活動を始めては、警察行政各般にわたりまして深いご理解とご協力を頂いてますことをこの場をお借りしまして、お礼申し上げます。

当署としましても、地域の皆様が安心して暮らせる為犯罪検挙、防犯対策を一つ一つ推進し、身近な犯罪であります空巢、ひったくり、乗物盗等の検挙などの犯罪のない明るい街づくりに努めているところであります。

さて、港北区内の犯罪発生状況に目を向けてみますと、平成二十年一月から十月までの当署管内の刑法犯認知件数、つまり警察が把握した事件の件数は三、一七三件、前年比マイナス三四二件で、前年比マイナス九、七%となっております。

平成十四年に比較しますと三、三二七件（マイナス五一、一%）の減少になります。しかしながら、刑法犯全体では、

減少しているものの、振り込み

詐欺にあつては、全県的に増加し、港北区内も例外ではありません。

振り込み詐欺については、平成二十年十月末現在で六四件発生し、被害額は一億円を超えています。

昨年に比較しますと、三二件（プラス九三、九%）の大幅増加となっております。

オレオレ詐欺の手口も、犯行の数日前に電話を入れ、「カゼをひいて気管支を痛めている」、などと普段と声が違うことを信じ込ませるような話をした上で、「携帯電話が壊れて番号が変わった」、などと言いつつ、犯人の電話につながるようにして本人に確認できないように仕向けて犯行に及んでいます。

また、新しい手口として
○振り込みの際に警察官や金融機関の職員から声を掛けられた場合は「リフォーム代金」、「新車の購入代金」、などの振り込みであると説明するよう指示する。

○ATMや窓口を利用せずエクスパックで直接現金を郵送さ

せる。

振り込み詐欺の被害を未然に防止するためについては、次の四ヶ条を実践して下さい。

その一、自分のところにも、必ず振り込み詐欺の電話が掛かってくるという気持ちを持つ

その二、携帯電話の電話の番号がかわったという連絡があったら、必ず、前の番号に確認する。

その三、家族の間で通用する合言葉（ペットの名前等）を決めておき、本当の家族かどうかを確認する。

その四、税務署、社会保険庁等の職員から、税金等の還付のために携帯電話を持つてATMへ行くよう指示することは絶対に行かないことを承知しておく。

空巢については、昨年十月末現在では、二二一件と、一昨年の同時期と比較して、マイナス一七件と減少しているものの、未だ高水準で発生している状況にあり、連日、当署員が警戒強化をしています。

港北区内の空巢の手口分析をみると、大半が、窓破りの手口であることから、窓に補助錠を付けることが、防犯上、大変有効です。

最後に自転車盗発生の約半数が無施錠で、空巢の被害者の方にも無施錠により被害に遭う方がおります。

振り込み詐欺の被害者にあつては、振り込み詐欺を知らない人は居ません。

そういった「自分に限っては、まさか自分が」という方が犯罪被害に遭っており、是非、防犯意識を高め自主防犯に努めていただければと思います。

お知らせ

日吉町自治会では、何時発生するかも知れない災害時に備えて、社会的に弱い方々の被害を少なくしようとの思いから自主防災組織をスタートさせました。

独居老人、近くに身寄りのないご老人等々緊急時にご不安の多い方々は、自主的に申告していただき、予め、決められた協力者が、緊急時には、可能な支援を図る組織です。

地区長、副地区長、民生委員が連携して推進していますので、該当する方はご相談下さい。

日吉の丘

私たちの住んでいる日吉は坂がたいへん多い。つまり、丘がそれだけ多いということだ。

東急日吉駅が丘の上にあり、買い物も駅まで行かねばならない。慶応大学も丘の上にある。この丘の群れを学問的には下末吉大地と言う。

遠い遙かな昔、未だ地球の地殻活動が盛んな頃、関東地方は、大地の隆起陥没、堆積を繰り返し、海水の浸食を受け、当地方も現在の台地群(丘)の形成に至った。

丘のすぐ下は海であった。六五〇〇年前、海岸線は高田、下田、矢上谷戸近辺(日吉一丁目)に及んでいたことが判っている。

日吉近辺には、縄文、弥生時代の遺跡や貝塚が発見されているが、人々はこのような自然環境の中で、丘の上に住居を造ったのである。

弥生時代、人は一般的には稲作の関係で山(丘)から平地に移り住んだが、南関東では縄文時代と同様に、台地に堅穴式住居を造って住んだ地方が結構多く見られると言われている。

県立歴史博物館(横浜市中区関内)の展示模型は、まさに日吉周辺

の地形環境を模したのではないかと思わせるものである。興味をひく展示模型である。

海岸線が後退して数千年を経過して、やがて、稲作が盛んに行われるようになるが、周囲の丘から湧き出す水が使われたと思われる。かつて、川崎との境を流れる矢上川が重要な農業用水であったが、雨の降らない夏は、近隣の村と水争いが起きたと言われている。

台地から湧き出る水は「天水場」「用水場」と呼ばれる貯水池を造り地域の有効的な水の利用に腐心し、地域の互助精神の醸成に大いに役立ったと言われている。

年降りて今、田畑はアパート、マンションに変わり、人々に限りない恩恵を与えた日吉の丘は、家が隙間なくびっしりと建ち並ぶ。かつて、古の人々がそこから眺めた景色は海であった。

今回丘に重点を置いて述べてきたので、日吉町を形成している丘の現在地名とそれに対応する旧宇名を記してみよう。

日吉一丁目(谷戸)、日吉二丁目(上ノ町)、日吉三丁目(仲ノ町、下ノ町、根搦) 日吉四丁目の丘は慶応大学日吉キャンパスで、有名な弥生時代の住居跡が残っている。

何千年か前にはこの住居跡のすぐ下は海だったのだ。

そして弥生時代になって、人々はどんな米を作っていたのか。あの例の赤い古代米かもしれない。などと、イメージが膨らむ。

カッコ書きの旧宇名を今はほとんどの人が耳にしたことがないはずだ。

日吉はかなりの字名が農耕、地形に由来するもので、都市化の進む過程でなじまないということがあったりして、簡単に切り捨てられたと思われる。

皮肉にも、これら字名よりも古い時代に使われていた「矢上」という地名が使われている例がある。矢上川、矢上小学校、矢上橋等である。

この矢上という地名が初めて登場するのは「新編武蔵風土記稿」によると、一五九九年の戦国時代だとされている。

矢上は日吉町の最東端にあると思われがちだが、そうではなく、西側の日吉公園内の遺跡は「矢上上ノ町遺跡群」と言われているし、矢上は、かなり広範な地域を形成していた。

私は、個人的には「日吉」と言う地名より「矢上」と言う地名に

魅力を感じる。古くから使われていた「橘樹郷」とともに古代のロマンを感じるのだ。

丘にまつわる失われたエピソードが有ったのではないかとあらぬ想像をしている。

第五地区長

伊藤鈴太郎記

昨年後半の主な出来事

◆毎年秋、自治会主催の防災訓練が行われますが、昨年は十月二十六日、日吉台小学校(西地区)、十一月三日、矢上小学校(東地区)にて行われました。

毎年多くの方に参加を呼びかけ、非常の場合の対処の仕方を学んで頂こうと努力していますが、なかなか理解が得られず、毎年の参加者が固定的になっているのは残念です。災害は何時起こるか分かりませんが、発生すれば現場は混乱し、收拾はつかなくなるかも知れませんが、必ずご近所の方々の協力が要になります。災害時の対処の仕方について、基本的なものを知って頂く為にも、次回には多くの方々が、ご近所の方々と共に参加して頂けたらと思います。

◆ 昨年の日吉のお祭りは、二日間とも雨にたたられましたが、人の出足はまずまずで、夜店も賑わい、毎年のお祭りが如何に氏子達に楽しみにされているのか、改めて認識させられました。

特に二日目の子供神輿では、初めて日吉台小学校区域を練り歩いた為か、子供会の方々も熱心で、雨にも拘わらず、多数の子供達が参加しました。神輿を担ぐ掛け声が町中に響き、周辺住民の眼差しも大変明るいものでした。

八月二十八日の例大祭は、雨の予想が奇跡的に外れ、神事は、厳かに、規律正しく、古来の伝統に従い行われました。この例大祭には神社関係者だけでなく一般の方々も参加できます。住民の皆さんもこの神事に参加して素晴らしい日本の文化に触れてみては如何でしょうか。



横浜、川崎両市への分割合併が進まない中、昭和九年四月慶応大学が開校し、日吉駅を中心とした地域の発展が予想されたが、横浜市よりの水道は慶応に給水されただけで、駅前前開発地域への水道敷設は行われなかった。

これらのことにより、日吉台を中心とする西部の住民から、横浜市との合併を早急に解決すべきとの主張がでたが、東部の住民との間に亀裂を生ずることになる。

このような中で、横浜市は市北部の近隣町村との合併を次々と行い、日吉村は置き去りにされたようなことになってしまった。見かねた県当局は、再び分割合併を促進すべく行政指導を行うこととなる。

昭和十二年四月、日吉村村議会改選が行われたが、これを期に、や々と分割合併問題が解決に向かい、矢上川を境として、東西四字ずつが、横浜、川崎両市に分けられたのである。

慶応義塾は、昨年百五十周年の記念式典を盛大に行ったが、日吉と慶応についても触れておきたい。大正十二年におきた関東大地震の復旧が進み、住民も多少落ち着

きをみせてきた、大正十五年頃の慶応義塾塾長の日記に、この頃すでに郊外へ一大敷地を用意し、大学を拡張する計画があった事が示されている。

昭和三年には学内に評議員会が設置され、土地の詮索が始められている。同年八月には東京横浜電鉄から日吉の土地の話が伝えられたが、この頃小田急電鉄からは相模原の土地を、或いは別の会社からは小金井付近の土地では等々の話がでていた様である。

度重なる評議員会で審議の結果、学生通学時に於ける電車の増発などの取り決めがなされて、昭和五年に日吉への慶応進出が決意された。続いて建設工事が行われ第一期工事（大学予科）が完成し、昭和九年春の開校により塾生が日吉に通学することとなったのである。

（次号に続く）

編集雑感

◆ 新春号は、我々の生命、身体、財産を守って頂く、警察に投稿をお願いしましたところ、ご多忙の中快くお引き受けいただきました。お話によれば昨年の犯罪発生件数は最近のピーク平成十四年の半分以下になっているとの事、これ

は、警察及び警察関係者の方々の、昼夜を分かたぬご努力の結果であると思えます。しかしながら、未だ空巢は高水準で、振り込め詐欺にいたっては、前年比、倍増しているとの事、住民の一層の自衛意識が必要の様です。

更に今後は、世界同時不況の影響が、我々の生活に及ぶ事は確かです、不況が進めば治安が悪化する事は容易に想像されます。

改めて、警察との円滑なコミュニケーションを確保すると共に、ご近所付き合いの大切さを再認識し犯罪増加を防ぎたいものです。

◆ 最近自治会の存在意義が問われています。具体的には住民の加入率の低下、自治会組織の形骸化に表れているといわれます。

横浜市の場合を見ると平成十九年は七九、四%で平成十五年比七、六%下がり、当港北区の加入率も平成十九年は七四、一%で平成十五年比四、六%の低下を見えています。

高齢化による担い手不足や人間関係の希薄さがその原因と思われるが、一方テレビや新聞では地域の重要性がよく謳われます。

自治会として、組織の存在を高めるには如何にあるべきか、皆さんと共に考えていきたいものです。